

2018地域ミーティング 〔 栗田部・岡本・南中山・服間地区 〕開催結果

開催日時 平成30年5月13日（火日）午後7時から8時40分まで
会場 社会福祉センター 多目的ホール
出席者 118人
（地区）【栗田部・岡本・南中山・服間地区自治振興会】会長
（市側）市長、企画部長、総務部長、今立総合支所長、市民福祉部理事（健康長寿担当）、建設部理事（建築担当）、教育委員会事務局理事
司会進行 市民自治推進課長
記録 地域振興課

◆開会・目的説明 市民自治推進課長

◆市民憲章唱和

◆花筐地区自治振興会 会長 あいさつ

【市政ミーティング】

◆市長 あいさつと平成30年度予算概要や主要事業の説明 （別添資料参照）

【質疑応答】

Q-1：ふくま振興会 事務局長

市道狭隘道路A路線の除雪は、道路管理者でない地区振興会が除雪業者との契約を行っている。除雪の発注タイミングがわからないし、人材もノウハウもないので、市道の除雪要請に合わせてやってもらっている。業者も市の要請時に合わせているのが現状ではないかと思う。財源も交付金であるので、あえて振興会や町内を契約窓口にしての意味合いを教えてください。

また、除雪時に個人の財産をいためた場合、苦情が振興会や区長に入ってくる。事故等不測の事態があった場合の責任はどうなるのか。

最後は要望ですが、学校、公民館の除雪も地元の負担を求められる。負担をすることはやぶさかではないが、負担が大きいので負担が軽くなるよう配慮していただきたい。

A-1：総務部長

市道の除雪につきまして、除雪機械の通過が可能な幅員が4.5m以上の幹線道路や生活道路は、市が直営で実施しております。

一方で、道路幅員が2m以上4.5m未満の市道などの狭隘道路で市が認定した路線については、自治振興会や町内会の協力を得て、除雪をいただいているところ です。

こうしたことから、狭隘道路のA路線は、契約の当事者を地区自治振興会にお願いしており、市では、狭隘道路の除雪費に対して、自治振興会へ交付金を交付し、支援しております。今後とも、地域と市が協働して狭隘道路の除雪を実施してまいりたいと考えております。

また、事故等不測の事態があった場合の責任については、市除排雪作業委託契約に準じるとされており、作業中は、道路構造物その他第三者の物件に損傷を与えないよう配慮しておりますが、もし損害を与えた場合は、除雪業者の責任において対応することとなっており、無過失の事故の場合には、市が調査の上、適切に対応してまいります。

Q-2：花筐公民館 館長

平成29年度は、2月上旬からの数週間で記録的な大雪に見舞われ、県内・市内で多くの交通障害等が発生しました。このような事態を踏まえて、平成30年度の除雪について、どのような対応を考えておられるのか。概略等でもお応えいただきたい。

A-2：都市整備課長

平成30年2月の記録的な大雪時においては、除雪作業の遅れにより、市民生活に影響が生じました。その際、除雪業者の能力に応じた除雪工区の設定・除雪路線の優先順位・今立地区の排雪場所の確保などが課題となりました。

それらを踏まえ、市では現在、県と連携を行い、今回の大雪におけるの検証と除雪業者へのアンケート調査を行い、除雪体制の見直しや排雪場所の確保を行っているところです。この見直しにより、除雪作業の遅れによる市民生活への影響を最低限に抑え、市民生活の安心と安全に寄与したいと考えております。

Q-3-1：服間地区市野々町 区長

昨年大雨で市野々町の水間川において、川の底面に敷き伏せてあるブロックや大きな岩が川の中に数個流れて来ており、住民が前回の水害で被害を受けたため、再び同様のことが発生するのではないかと心配しているため、取り除いてほしいという意見が多数寄せられている。早急に考えて頂き、処理をよろしくお願ひしたい。

また、市野々町の水間川で川が深く掘れて根が出ており、危険な箇所が数か所あるので、この点も同様によろしくお願ひしたい。

A-3-1：都市整備課長

水間川の川底にある転石や川底が深く掘れている現状に対しては、市から管理者である県に要望をしているところでもあります。

県においては、現地パトロールで状況を確認し、昨年度は、一部、川底を玉石等で根固めしました。今後も、現地パトロールをするなど、現地状況を確認し、必要な対応をしていくと聞いております。

Q-3-2：服間地区市野々町 区長

いつまでに対応できるのか。もうすぐ梅雨の時期に入るので早く対応してほしい。

A-3-2：都市整備課長

水間川は一級河川であるので担当は県になります。県も現場を確認していると聞いていますので、強く要望してまいります。

Q-4：栗田部地区栗田部町蓬萊区 区長

今立総合支所の跡地については、地域住民の憩いの場となるような公園や広場、あるいは観光客も利用できる道の駅のような機能的な施設を建設する方向で検討をお願いしたい。

A-4：企画部長

あいぱーく今立は旧今立町役場、もくせい会館、ふれあいプラザの3つの機能を集約したような施設で、250人収容できる多目的ホールや会議室、調理室を備えています。東側には図書館、南側にいまだて芸術館があり、3館が連携し利用者の利便性の向上を図ってまいります。

あいぱーく今立周辺はカタカナのコの字のような大きな面積となり、イメージコンセプトとして「人が集まる公園のような憩いの場」としています。

また道の駅のように総合支所に観光客の駐車場、休憩施設としても利用を想定しています。9月25日に供用開始予定で、周辺の旧今立町役場、もくせい会館、商工会を来年度取り壊し予定です。

市では「JR武生駅前」と「あいぱーく今立周辺」を2つのまちづくりの拠点としており、あいぱーく今立周辺全体を有効利用していただきたいと考えております。

【地域ミーティング】

◆①「地域自治振興計画の改定」 市民自治推進課説明 (別添資料参照)

【質疑応答】

Q 1-1：栗田部地区栗田部町宝栄区 区長

越前市のコンパクトシティ政策を説明してほしい。この政策を進める中で、栗田部地区は将来 どのように変貌していくのか。市としての考えや方向性あるいは計画があればお教え願いたい。

A 1-1：都市計画課長

本市でも将来的な人口減少・少子高齢化時代が進み、現在の市街地の規模のまま人口減少が続けば、今まで身近に利用できた医療・福祉・商業等の生活サービス機能や公共交通など日常生活に必要な機能が低下し、現在の暮らしやすさが損なわれていく事が懸念されています。

こうした中、平成29年3月に「都市計画マスタープラン」を改定し、併せて「立地適正化計画」の策定を行いました。都市計画マスタープランでは、既存機能を最大限に生かしたコンパクトなまちを目指して「持続可能な定住都市の形成」を基本理念としており、立地適正化計画では、その基本理念を踏まえて、「本庁舎周辺地区」を「中心拠点」に、「複合施設（あいぱーく今立）周辺地区」を「地域拠点」に設定し、公共交通を中心とするネットワークの構築により、それぞれの拠点と、その周辺部および農山村部がネットワークされたコンパクトで持続的に発展するまち、「持続可能なネットワーク型コンパクトシティ」の実現を基本目標としコンパクトシティの更なる推進を目指すこととしています。

「複合施設（あいぱーく今立）周辺地区」は、主要バス路線や地域を結ぶ交通の拠点として機能する等、公共交通の利便性が高い地区であり、伝統と文化、防災で結びつける拠点として位置付け、市東部地域を対象とする都市機能の充実を図る事で暮らしやすさの維持・向上を図りたいと考えています。

A 1-1：企画部長

2つの拠点の1つが「あいぱーく今立周辺」であり、栗田部地区も入りますが、東部地区の都市機能の充実を図り、暮らしやすさの向上を図ってまいります。またJR武生駅前については、新庁舎や文化施設、商業施設等を集約して暮らしやすい街づくりをしていきたいと思っております。栗田部地区の自治振興計画については、市民自治推進課の担当と協議していただきたいと思っております。

◆②「地域福祉の推進」 社会福祉課説明 (別添資料参照)

【質疑応答】

Q 2 - 1 : 南中山地区

ボランティアにもいろいろ内容がある。今年、滋賀県の愛荘町に視察に行った。愛荘町ではボランティアした人にポイントがついていた。移送サービスも学んできた。

高齢者の心配事は免許返還した後、買い物や病院にどうやっていくのかである。越前市はどう取り組んでいるのか。

A 2 - 1 : 市民福祉部理事（健康長寿担当）

先ほど説明させていただきましたが、協議会が生活支援組織を作っています。例えばサポート帆山では有償サポートとして30分くらいと単価設定をして玄関前の除雪を生活支援サービスとして行っています。各地区の中で、各々課題対応でどういったことができるか研究しています。移動支援についても生活支援サービスの中でお互い助け合うことができないかの動きがあります。買い物支援ではコンビニなどが移動販売を行っていますが、移送サービスの課題解決については、協議体の中で研究していきたいと思います。

A 2 - 1 : 企画部長

免許を返納されると、市民バスが無料になります。また、タクシー割引のサービスもあります。路線バスも週3回で動いていますが、利用者が減少していますので使っていただきたい。

Q 2 - 2 : 粟田部地区粟田部町鞍谷区 区長

人生100年といわれる中で、市として子どもも含めた年代別の将来のまちづくりを考えてほしい。小学校が4校、中学校が1校となり少子化している。建物は耐震化して大丈夫かもしれないが、ハコモノを作っても中に入る子どもが少なく、空き教室が多い。そういった現状を見ると、高齢者施策だけでなく、子どもをどう育てていくのか。施策としてどう考えているのか。

A 2 - 2 : 教育委員会事務局理事

小学校の取り組みを紹介させていただくと、3年前から地域と進める体験事業を県とタイアップして行っています。子供がそれぞれの学校地区の課題をとらえるということをしております。例えば伝統産業や地区の大きな武器になるものなどを対外的にアピールしたり、英語で地区を表現するなど行っております。大切な視点だと思いますので、これからも地域のお力をお借りしたいと考えています。

◆③「福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会」 国体推進課
(別添資料参照)

(質疑なし)

◆終わりのあいさつ (岡本地区自治振興会 会長)

◆閉会